トマトの葉から病害の有無を

確認する阿部さん

Part 1

共

「栽培に

Ç

を取り入れていきたい」と庄司さん

花きを栽培する他、

ョソウやスターチスなどので就農。施設22~でキンギ

016 (平成28) 年、実家町の庄司力さん(24)は、2

れしい」と話す登米市南方る手助けができていればう

湾

業への思いや決意、展望を聞く。

農林業センサスより)。ふるさとの原風景の維持

下の割合が全体の2割となっている(2015年、

県内の農業従事者の年齢構成を見ると、

59 歳以

や耕作放棄地解消のためには、

担い手の確保が重

要な課題となっている。今週号と3月2週号では、

ふるさとで活動する担い手にスポットを当て、農

NOSAI宮城 仙台市青葉区上杉 1丁目8番地10号 〒980-0011 電話022(225)6701 http://www.nosaimiyagi.or.jp/

減農薬で米作

ながら、将来を担う子供たむきれいな地域環境を守り

い。おいしさを実感してほ



食堂の前で商品を手に賢治さん(右)と長松さん

登米市 庄司 農業 力さん

を通して、生活を豊かにす 幸せにする力がある。農業 【登米市】「花には人を 沿と野菜を手掛ける。

みたい。 庄司さん。 専攻し、 利用した栽培管理に取り組 高品質化を目指す」と話し、 を基に、商品の安定生産・ ではなく、 ICT(情報通信技術) 高校と大学で施設園芸を 知識を身に付けた 経験や勘に頼るの 集積したデー 「大学で学んだ を

情報を共有し、切磋琢磨し息抜きになる。課題や技術 庄司さんは「同世代の仲

可能性を広げていきたいと 従来の方法にとらわれず、 地元の4Hクラブ

間たちとの交流は農作業の する。 販売会や勉強会に参加

人・地元に貢献したい」といく。自分を育ててくれるて地元の農業を盛り上げて 知識を深め、

(浅野ゆ)

向上に努める。

(農業青年クラブ) に在籍

ちに安全な食材を届けた 菜を栽培する。 「ほたる舞ファ 同ファー

長松さんが代表を務める 03年設立)」で、 会で農林水産大臣賞を受賞 肥を使用して減農薬で 成27)年に県農林産物品認 とめぼれ」を栽培。15(平 ハウスでソラマメなどの野 ・6%、ソバ4%、露地と ムでは、EM堆 ム (20 水稲 2

自宅に隣

の渡邊賢治さん(4)。父・しい」と話す、村田町小泉

産のソバを長松 「みがき玄米」や「ほた る舞(ひとめぼれ)」

賢治さんは、妻・香織さ

磨いて、栄養価を残しなが この商品は、玄米の表面を 気商品だ。また、自宅に隣ら食感を白米に近づけた人 接した食堂「けんちゃんち」 んと「みがき玄米」を開発。

る。 では、 さんが手打ちして提供す 自家

で商品や店の情

しい」と話す賢治さん。今知ってもらえることがうれ 地区の活性化に努めていし、研修生を募って、小泉 後は担い手 報を聞いて 内外の人に い、ホタルの里をいいれてくれた県 の確保を目指



ないなど苦労が多かった。の発生、生育が均一にならがずれ込むことや、病害虫がすの発生、生育が均一になら てい」と庄司さん。 「とにかく経験を積むしか 「研修で学んだ 子供 そう Kたちに引き継ぎ これからは私が これからは私が いう存在になり (今野昌)

穫を通して見えるので、やに表れる。努力の成果が収培のこだわりが収量や品質は加美町】「農業は、栽

隊員として活動しながら、

知識を人に伝えることで、

加美町の地域おこし協力

さらに、

町内の農業法人で2年間研

加美町

庄司

政信さん

意した。

景を守る

の庄司政信さん(39)。ふるりがいがあっておもしろ

で就農。水稲3・2診、園修した後、昨年4月、実家

から、

さとを離れ東京で生活して いたが、環境の良い田舎暮

きずる 石巻市 なを上 阿部 貴博さん 際には、収量減少が顕著で、

「手を掛けた分、

成果が出る」と庄司さん

らしを考え、

Uターンを決

就農1年目は、

作業計画

る。

サスとシュンギクを栽培す

芸施設2・6~でアマラン

部貴博さん(39)は、地元の 農業法人の常務を務める傍 (10㎡) とコマッナ (5 個人の園芸施設でトマ (平成16) 年に 『目で見て学ぶ必要がある』 働く姿を見て、 り返る。幼いころから父のと言われ、苦労した」と振

5

行ってきた。 業を継ぐことが務めだと考 現在まで地元で活動を いずれは家

芽かきや雑草処理などの手 収穫に追われ、トマトの

を栽培する。

業の先輩である父からは、 就農した阿部さんは、

詳細に教わるのではなく、

人れが追い付かなくなった

せ、 認識。まずは収量を安定さ日々の手入れの重要性を再 指すという。 阿部さんは「出荷した野 さらに品質の向上を目

やりが 菜が量販店に並び、 しかったと言われることが んが商品を手に取る瞬間 地元の人たちからおい 話し、今後も地域にいいにつながってい お客さ

根差して営農に取り組む。 ーションを大切にするべき また、人とのコミュニケ